

加藤友三郎と早速整爾

広島市議会議員 松坂知恒

一. 二基の台座

南区の比治山に上ると木々の緑と清々とした空気がいつも迎えてくれる。学生時代には、冬になると体力増強のため週三日比治山を走らされた。NHKの電波塔へ駆け上がりそのまま旧御便殿跡まで駆け下った。その頃から公園内に銅像の台座らしき石作りの台が二基あることに気付いていた。その台は26年後の現在も変わっていない。

御便殿跡の広場は現在まんが図書館が建ち変貌している。その広場に向かって左側に石段が有り、それを上ると一基の台座がある。銅像は今は無い。また銅像建設由来碑があるが、はめてあった銅板は今は無く石の枠が残るのみである。これが広島市出身の元総理大臣加藤友三郎の台座である。堂々たる石造りの台座は像を失っているものの、広島に空に屹立している。

田辺良平氏の著書「加藤友三郎」によると、銅像建立が昭和10年(1935年)。戦争中の金属回収により撤壊されたのが昭和18年(1943年)。わずか8年間の命脈であった。台座に刻まれた「海軍大将加藤友三郎」の文字のみが、台座の主を我々に教えている。

加藤友三郎の台座から園路を挟んだ反対側にも石造りの台座がある。六段積みで堂々たる台座であるが、銅像は無く碑板は失われている。この台座の主を示すものは何も無い。これこそ広島市出身の大蔵大臣で広島市会議長をつとめた早速整爾の台座である。

なぜ文字が全く残されていない台座の主が早速整爾と分かったのか。その理由を述べる。前述の田辺良平氏から早速整爾の御遺族板倉昭子氏を紹介された。板倉氏から比治山公園に銅像の台座があることを聞いて、広島市所蔵の湊邦三著「早速整爾傳」を開くとそこに銅像建立の記事と昭和4年(1929年)の除幕式の写真とが掲載されていた。まごう事無き現存する台座がそこにあった。広島市政においてもまた国政においても数多くの偉業を残した政治家の足跡が、かくのごとき姿でさらされているのはあまりにしのびない。

二. 加藤友三郎の業績

加藤友三郎は文久元年(1861年)広島市大手町(現在は中区大手町)で出生。明治6年(1873年)海軍兵学寮に入学し海軍軍人となった。以後順調に昇進した。加藤友三郎の名が後世に残るのは、明治38年(1905年)1月日露戦争のさなか連合艦隊参謀長に任命され、同年5月27日の日本海海戦に参加、旗艦「三笠」艦上で指揮を執り、ロシアバルチック艦隊を撃破し海戦を勝利に導いた。

大正4年(1915年)8月、大隈重信内閣の海軍大臣に就任。以後寺内正毅、原敬、高橋是清と4名の内閣で海相を務めた。特記すべきは大正10年(1921年)ワシントンで開催された「ワシントン軍縮会議」に首席全権として出席し、対英米艦艇六割比率で海軍内部の軍縮反対派を説得し「ワシントン軍縮条約」を締結し国際協調につとめたことである。

その政治的手腕は大いに評価され、翌年6月ついに内閣総理大臣に任命された。首相在任中

も派兵したシベリアから撤退を決定し、現在のイラク派兵にも似た不条理な戦闘を終結させている。

しかしながら加藤は「ワシントン軍縮会議」でエネルギーを燃焼し尽くしたのか病魔に倒れ大正12年（1923年）8月現職総理大臣のまま死去した。享年63歳であった。

三. 早速整爾の足跡

早速整爾は明治元年（1868年）広島県沼田郡新庄村（現在は西区新庄町）にて出生。明治20年（1887年）7月東京専門学校（現早稲田大学）を卒業し、明治22年（1889年）帰郷し芸備日日新聞の社長となった。明治29年（1896年）には28歳で早くも広島県会議員に当選。明治34年（1901年）には広島市会議員に当選し、明治35年（1902年）には衆議院議員に当選した。齢34歳である。当時は国会議員と地方議員との兼務が認められており早速は明治43年（1910年）6月から明治45年（1912年）1月まで広島市会議長を務めている。

この間広島電気軌道株式会社の設立に参加、広島城濠埋立地を路線敷設に原価で払い下げさせた。早速の判断で電鉄軌道は電車も通り人間も通る併用線となって現在に至っている（現在の相生通り）。市政と会社の間立ち、早速は利権を貪っていると批判があったが、検事局の取り調べの結果早速には何一つ不正事実が発見されず、早速を攻撃した側の人々の不正が暴露され多くの反早速派の市会議員が失職した。

国政においては、当初政党に属さず無所属議員として活動していたが、大正5年（1916年）加藤高明総裁率いる憲政会の結党に参加し以後政党人として憲政会、つづく民政党の中心人物として活躍した。

清廉潔白な人柄と頭脳明晰な才能をもって、次第に人望を獲得した早速は大正14年（1925年）8月第二次加藤高明内閣の農林大臣に就任した。一年足らずの任期中、重量の測定方法が定まっていなかった輸出生糸の検査方法を整備する輸出生糸検査法を成立させるなど功績をあげた。

さらに加藤首相の死後成立した若槻礼次郎内閣において引き続き農相を務めたが、大正15年（1926年）6月内閣改造において大蔵大臣に任命された。この間早速は農相就任直後に病気と診断されていた。後日「胃癌もしくは直腸癌の疑い。」と診断されているが、癌をおして職務に精励した。その上蔵相就任を受諾した早速は遅からぬ死を覚悟していた。財政経済通として通っていた早速蔵相の誕生に国民は期待したが、予算編成を前に病床に臥すこととなった。

しかし早速は病床においても役所の書類を次々と決裁し、蔵相としての責務を全うしようとつとめた。看護する家人の静養せよとの言も容れないまま病勢は亢進し、ついに、大正15年（1926年）9月13日死去した。享年59歳であった。

また一つ驚いたことは、「早速整爾傳」によると墓所は「広島市松川町の法正寺」とあり、浜口雄幸総理大臣が礼拝している写真が掲載されている。「松川町の法正寺」とは、南区松川町の法正寺のことで、拙宅の近所である。比治山公園も法正寺も徒歩5分の圏内にあるが、議事人として全く知らなかった事は不明の至りである。

昭和4年(1929年)11月の銅像除幕式には早大総長高田早苗、鉄道大臣江木翼が出席、盛大に挙行された。「早速整爾傳」には戦後保守合同に功績のあった衆議院議員三木武吉や敗戦直後広島市長として二年間復興に尽力した木原七郎が記事を寄せているが、いずれも早速の後輩にあたる。

このように国政や地方政界に重きを成した早速征爾が、今日広島市において全く語られていないのは何故か。私は9月議会において質問に立った。

四. 秋葉市長の答弁

加藤友三郎も早速整爾も広島市出身の偉人であるが、現在その足跡は全く語り継がれていない。広島市はその足跡をかえりみて後世に伝える責任があるのではないかと尋ねた。答弁に立った秋葉忠利市長は「加藤友三郎は海軍軍縮と国際協調を推進し平和都市広島のイメージに合致した人物である。加藤をはじめ広島ゆかりの先人の情報を積極的に収集し、広く情報を発信していく事は市の責任において実行していく。」と述べた。

この質問の中では、原爆ドーム前に立つ詩人原民喜の詩碑の裏面に刻まれている文学者佐藤春夫の碑文と、慰霊碑の後方に立つ彫刻家円鋸勝三の手による「平和祈念像」の脇にある詩人草野心平の詩碑についても言及した。佐藤春夫、草野心平両氏は著名な文学者・詩人であるが、平和公園内には案内板も説明板もない。全く残念なことである。このままでは先人の業績は地中に埋もれたままになるのではないか。

五. 抹消された理由

中区大手町三丁目の大手町第二公園内にある「加藤友三郎生誕の地」の石碑であるが、田辺良平氏によると昭和5年(1930年)に建立されたものである。この石碑は敗戦後、旧軍関係や戦捷記念碑的なものは、平和の精神に反するということから公園内に埋められてしまったのだそうである。これを知った郷土史家が広島市の公園緑地部へお願いして昭和55年(1980年)造り直して建立したという経緯である。加藤は軍人であったという理由でその足跡は一旦抹消されてしまった。

一方の早速は政党政治家でありながらその足跡は市内に全く認められない。先に述べた戦後第一号の市長木原七郎の足跡も皆無である。なぜか。早速・木原は、現在広島の言論界に君臨する中国新聞と当時激しく対立していた芸備日日新聞の社長を務めていたことからかとも思われる。名声かくかくたる早速・木原両氏を抹殺したいとの意図も、対立する片方の側には当時あったのだろう。

兎にも角にも、昭和20年(1945年)8月6日に投下された原子爆弾は、多数の市民を殺傷し市街を破壊し尽くした。それにとどまらず、敗戦前の文化財や遺産を焼き尽くし、あまつさえ人々の記憶も焼き尽くしたのである。

加藤や早速の業績は、市内に銅像の立つ元首相池田勇人や元衆議院議長灘尾弘吉をも凌ぐものである。しかも竹原出身の池田、能美島出身の灘尾と異なり加藤・早速は広島市内に生を得

ている。

加藤や早速を記憶していた人たちの多くは被爆死した。また生き残った人たちも自ら生きるために死にもの狂いの時間を過ごし、また被爆者救援のためあらゆるエネルギーを捧げたため、戦前の先人の遺徳を顕彰する余裕が全くなかった。

原子爆弾は人命や建造物だけでなく、人々の記憶を消し去り生きる余裕すら奪ったのである。比治山公園に屹立する二つの台座を見て、戦争の悲惨さと原子爆弾投下のあまりのむごたらしさをあらためて感じている。

参考文献

田辺良平著 「加藤友三郎」 春秋社発行

湊 邦三著 「早速整爾傳」 早速千代野発行